

平成20年度

大阪市立大学大学院法学研究科法曹養成専攻入学者選抜試験

【2年短縮型】

法律科目試験問題：刑事法（配点：100点）

注意事項

- 1 問題冊子は、監督者が「解答始め」の指示をするまで開かないこと。
- 2 問題冊子は、全部で2ページである。
解答用紙は、全部で8ページである。
問題冊子、解答用紙に脱落のあった場合には申し出ること。
- 3 解答用紙の上部所定欄に、1ページには氏名、受験番号、試験の科目名を、2ページ以降は各ページに氏名を忘れずに記入すること。
- 4 解答は、第1問は1ページから、第2問は5ページから記入すること。
- 5 解答以外のことを書いたときは無効とすることがある。
- 6 机上に各自の「受験票」と「大学入試センター法科大学院適性試験受験票」を出しておくこと。
- 7 解答用紙は、8ページを超えて使用することはできない。

第1問 (刑法)

X女(39歳)は、N駅で電車に乗ろうとし、駅の階段を降りている途中で、かなり高度の酒酔い状態(血液1ミリリットル中2.5ミリグラムのアルコールを含有)にあったA男(47歳)が後ろからぶつかってきたが、ようやく踏みとどまり、階段の下で言い争いになったものの、Aを振り切る形でホーム上を進んだ。ところが、その後、Aは、ホーム上で約30メートルにわたってXにつきまとい、その間、暴言を吐き、手で小突いたり、足蹴りしたりし、これに対して、Xが、手で払いのけたり、言い返したり、絡まないでよと言ったりすることが繰り返された。Xは、その様子を見て笑っている周りの客達に、笑っていないで助けてくれるように頼んだが、誰からも応じてもらえなかった。

Xがホームのベンチに荷物を置き、電車が入るという駅の案内放送があったとき、Aが手のひらでXの頭部を叩いて行きかけたが、それに対してXがAを突いたことから、Aは、向き直ってXに近づきXのコートの襟首をつかんだ。そこでXは、右手に左手を添える形で手のひらを広げAの右肩付近に当てた。その際、Aは、線路側を背にしており、ホームの線路際までの距離は約3メートルであった。

問1 Xが、まとわりついてくるAを突き放そうとして押したところ、Aは、よろけて後退し続け、ホームから線路内に転落したため、必死でホームに這い上がろうとし、近くの乗客も助け上げようとしたが、折から進入してきた電車とホームの間に挟まれて圧迫死した場合、Xの行為は刑法上どのように評価されるか、答えなさい。

問2 問1の状況に至る直前(XがAの右肩付近に手を当てて押そうとしたとき)、近くにいた乗客のYが、XがAを突き飛ばすとAがホームから線路上に転落する危険があると察知し、とっさに横からXを突き飛ばしたため、Xは転倒して軽い怪我をし、Aは転落を免れた場合、Yの行為は刑法上どのように評価されるか、答えなさい。

問3 問1・問2の場合とは異なり、Xが、Aから逃げようとすると同時に、Aの執拗な態度に憤激し、前方から電車が入ってくるのを知りつつ、殺意をもってAをホームの線路際まで数回押し続けて線路上に転落させ、その結果、Aが進入してきた電車に轢かれて死亡した場合、Xの行為は刑法上どのように評価されるか、答えなさい。

(配点:60点)

(刑事法)

第2問 (刑事訴訟法)

検察官の主尋問に対して証人は、一部は記憶があるが一部は記憶が曖昧だとして、供述を一切拒絶した。

捜査段階でこの証人の供述を録取していた検察官面前調書を証拠として許容できるかどうか、論じなさい。

(配点：40点)